

歯周病による咬合崩壊を救うために！
歯周病患者の咬合異常を7タイプに分類、
タイプ別にMTMによる対応例を示す！

バイオリジカルMTM

ライトフォースによる歯周病患者への矯正治療

著 **池田雅彦** (札幌市中央区・池田歯科クリニック/
元北海道大学歯学部臨床教授)
大出博司 (札幌市中央区・おおいで矯正歯科)

歯周病に罹患した歯の位置の変化は、①ブラークコントロールが困難になる、②咬合性外傷を受けやすくなる、③歯列全体の咬合の不安定を引き起こす、④ブラキシズムを増悪させる、など種々の問題を引き起こします。

本書では、このような問題を解決するために、歯周組織を損傷しないように、移動させたいだけの量を移動させることができる“ライトフォース（弱い力）によるMTM”について解説し、併せて咬合異常のパターンごとに症例を提示しています。

歯周病患者のMTMを行う際の注意点

1. MTMへのモチベーションを十分に行う。
2. 必要な歯を必要なだけ移動する。
 - ・固定源をしっかり設け、相反移動はできる限り避ける。
 - ・ライトフォースで行う。
ライトフォース：30g以下
移動：月に1mm以下
3. 炎症のコントロールを注意深く行う。
4. 治療が複雑になることが多いので、サポータティブペリオドンタルセラピー(SPT)が必要である。

バイオリジカル MTM

ライトフォースによる
歯周病患者への矯正治療

著者 池田雅彦 大出博司

HYORON

A4変判・208頁・オールカラー・定価(本体9,000円+税)

バイオリジカルMTM

ライトフォースによる歯周病患者への矯正治療

内容紹介

Graphic Guidance

第1章 歯周病治療における矯正歯科治療の役割

- Case1 上顎前歯のフレアーアウト Case4 高度な歯周病と下顎臼歯近心傾斜
Case2 上顎前歯の歯間離開と挺出 Case5 歯周組織の残存量が少ない重度歯周炎
Case3 下顎臼歯近心傾斜

第2章 歯周病患者における咬合異常のタイプ分類

- I 歯周病患者の咬合異常について
II 歯周病患者の咬合異常のタイプ分類
1. タイプI: 前歯フレアーアウト 2. タイプII: 前歯挺出 3. タイプIII: 正中離開 4. タイプIV: 下顎前歯叢生
5. タイプV: 前歯反対咬合 6. タイプVI: 臼歯近心傾斜と遠心傾斜 7. タイプVII: 缺状咬合, 交叉咬合
III 病的な歯の移動(PTM)について
IV 使用した矯正装置

第3章 咬合異常を伴う慢性歯周炎の治療の進め方

- I 慢性歯周炎の治療に関する基本的な考え方
II 慢性歯周炎の治療の進め方
1. 「治りやすい歯周病」への対応 2. 「治りにくい歯周病」への対応 3. 自己観察によるSBの治療
III 咬合異常を伴う慢性歯周炎の治療の進め方の実例

第4章 歯周病患者へのMTMの基本的な考え方と歯周病歯の移動

- I 歯周病患者へのMTMの意義=アンチエイジング
II 歯周病患者のMTMの特徴
III 歯周病歯の移動
1. 歯の移動様式 2. 矯正力の大きささと作用分布 3. 固定源(力の反作用に耐える抵抗源)
IV 歯周病患者へのMTMの進め方
1. MTM開始時の条件 2. MTMのモチベーション 3. 検査項目
4. 診断 5. 治療中の管理 6. 保定とメンテナンス

第5章 歯周炎とMTM治療導入へのモチベーション

- I 歯周炎とMTMの治療導入に成功するためには?
II IPシステム(イニシャルプレパレーションシステム)
1. IPシステムとは? 2. IPシステムの進め方

第6章 床矯正装置

- I 歯周病歯のMTMにおける床矯正装置の特徴
II 床矯正装置の構造
1. 基本構成 2. 作動部
III 床矯正装置の製作

第7章 タイプ別 咬合異常のMTM治療例

- Type I 前歯フレアーアウト Case1~Case4
Type II 前歯挺出 Case5・Case6
Type III 正中離開 Case7・Case8
Type IV 下顎前歯叢生 Case9・Case10
Type V 前歯反対咬合 Case11・Case12
Type VI 臼歯近心傾斜と遠心傾斜 Case13~Case16
Type VII 缺状咬合, 交叉咬合 Case17